

令和7年度 信学会松本南幼稚園 「自己評価および園関係者評価」

1. 園の教育目標

つながろう！「ともだち」「あそび」「まなび」 ～ 一人ひとりの夢中を見つけよう ～

2. 本年度の重点目標

- (1) じぶんっていいな ともだちっていいな
- (2) あそびをふかめよう
- (3) つたえあおう

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	A
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	A
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	A
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	A
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	A
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	A
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	B
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	A
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	A

4. 園関係者評価委員(モニター)からの評価

- 「個と集団、それぞれのバランスを考えた保育」の方向性が良い。自己選択、自己決定の場がしっかりと考えられており、自ら選んだあそびや役割を行うことで主体性が育っている。(松本市保育課)
- 環境再構成がよく考えられている。先生たちが良く子どもを観察しており、そのことで子どもたちが今何を欲しているかがわかり、新しいあそびやあそび場を提供している。(松本市保育課)
- 「個別、協同」 小学校としても学ぶことが多い。(小学校)
- 子どもたちが思う存分遊んでいる。ハイタッチしてくれた。地区の夜のパトロールも継続して行い、園とのきずなを深めていきたい。(地域町会長)
- 廃材で工作物を作っていた。今あるもので作ろうとしているのが良い。地域としてやれることがあれば相談させてもらう。(地域町会長)

以下保護者の方々からのご意見

- お年寄りとの交流が良い。
- 先生たちからのきつい言葉や暴力のうわさなどは聞いたことがない。
- お楽しみ発表会や音楽会に感動した。
- 運動会や音楽会で自主性を大切にしているのが良い。その後の活動につながっている。

- 担任の先生が連絡帳でしっかりと子どものことを伝えてくれる。
- 個と集団の活動のバランスが良い。
- 園舎内で自由あそびができるのが良い。
- 集団での活動に参加できずに一人で別の活動をしていたことがあったが、それもしっかり認めてもらっていたのが良い。
- 保育が丁寧。間違いがない。
- 新しいおもちゃやあそび場が多い。あそび場がどんどん変わっていく。
- 自主性、主体性が伸びている。
- お楽しみ発表会などを見ると、親が知らないところで成長している。すごい。
- 普段のどろだんごのあそびが継続されて学習発表会までつながっていた。

ご意見ご要望

- ・インフルエンザなどが流行している時期は両者のためにお年寄りの訪問を控えたらどうか。
 - ・お楽しみ発表会で別のクラスも見たい。(現在はひとクラスずつ開催)
 - ・参観日で親と一緒に作ったりすることが多いが、そうでない子どもだけの活動も見たい。
 - ・運動会で保護者は動かずに子どもが動いて見えやすくさせることはできないか。
 - ・運動会や音楽会で、すべての子どもが自分がやりたいことができているかが心配。
 - ・さらに補助の先生を多くしてもらいたい。
 - ・あずかり保育をもっと簡単に申し込みめないか。
 - ・歩きの帰りで子どもを引き渡す際、きちんと保護者の顔を見て引き渡してほしい先生がいる。
- 多くのご意見ご要望をいただきました。来年度に向けて改善していきたいと思っております。

5. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

□保護者アンケートの結果から (令和7年12月実施 回答率75%)

- ・「お子さんは安心して楽しく園に通っていますか」・・・そう思う、およそそう思う 98.8%
- ・「集団であそび込む楽しさ」と「個であそび込む楽しさ」の両方をバランスよく味わいながら活動を行うことは有効ですか」・・・そう思う、およそそう思う 100%
- ・お子さんや園・クラスのことをInstagram・ドキュメンテーション・レーザーキッズ・連絡帳などでわかりやすく伝えていきますか」・・・そう思う、およそそう思う 97.7%

□総合的な評価及び次年度への課題

- (1) 自己評価結果を見る限り、全体的にはどの項目においても「およそ達成されている」と言えそうである。昨年度と比べて「重点目標達成のための取り組み」について特に評価が向上した。本年度は「個であそび込む楽しさ」と「集団であそび込む楽しさ」のバランスポイントを意識しながら環境作りや活動の工夫をしてきた。保護者アンケートを見ても高い評価をいただいていることから、園で大切にしようと考えていることが保護者の方々にもしっかりと伝わっているように感じる。
- (2) 子どもたち一人ひとりが夢中になってあそびに取り組めるための環境・コーナー作りはここ数年間に力を入れて取り組んできている。例えば本年度はホールにステージを作り、楽器を置いたりドレスを置いたりしてみた。するとそこから様々な新しいあそびを子どもたちは創り出していった。園庭では大きな水槽を設置し、めだかを飼い始めた。ずっと覗き込んでいる子どももいる。このようなコーナーは子どもたちに一番近いところにいる保育士たちが発案し、自分たちで作っている。職員が「自分が園を作っているのだ」という気持ちで取り組んでもらいたいと願っている。さらにその園の風土を醸成させていきたい。
- (3) お部屋指導や行事の改革を行っている。運動会の鼓隊では、すべての子どもが太鼓やぼんぼん、フラッグなどの役割をすべて体験した上で自分がやってみたいものを決めるようにした。音楽会の合奏でもすべての楽器を体験した上でやりたい楽器を選ぶようにした。自己選択、自己決定することで主体性を育てたいと考えている。
- (4) 各学年のお楽しみ発表会では発表する内容・題材を子どもたちが普段のクラスの活動から見つけ出し、そのストーリーもみんな考えながら創り出すようにしている。本年度の様々なクラスの活動や行事でこのような取り組みを行ってきた。継続していきたい。
- (5) 昨年度から災害時の非常食や非常物資を少しずつ充実させている。本年度はPTAと協力してペットボトルの水を各自1本用意することができた。不審者対策として園門は電子錠に交換をした。さらに安心感を持っていただけるような環境・設備にしていきたい。